

# (仮称) 見附市子ども・子育て条例制定検討委員会 (第1回)

## 会議録概要版

令和5年11月13日(月) 14:00~15:30  
見附市役所 大会議室



- 委員 15名 小池委員(委員長)、笹原氏(坂井委員代理)、笠松委員、吉田委員、中澤委員、長谷川委員、小林委員、岩本委員、今井委員(副委員長)、倉重委員、齊藤委員、武石委員、高野委員、内海委員、田邊委員
- 庁内委員 8名 夫馬委員(欠席)、山田委員、高藤委員、関委員、岩崎委員、佐藤委員、宮本委員、真島委員
- 事務局 4名 こども課 鈴木課長、橘課長補佐、佐藤係長、荒木主任
- 資料
- ・次第
  - ・委員名簿
  - ・子どもの権利擁護にかかわる国の動向と条例制定
  - ・別紙1 「(仮称)見附市子ども・子育て条例」の概要について
  - ・別紙2 (仮称)見附市子ども・子育て条例 条文構成案
  - ・別紙3 (仮称)見附市子ども・子育て条例 条文の説明
  - ・(仮称)見附市子ども・子育て条例制定に向けたアンケート(集計結果)
  - ・(仮称)見附市子ども・子育て条例制定検討委員会設置要綱
  - ・(仮称)見附市子ども・子育て条例検討の体制について
  - ・ワークシート①②(仮称)見附市子ども・子育て条例のキャッチフレーズについて/ふりかえりシート/参考資料

## 会議録（概要版）

### 1 開会

（こども課長あいさつ）

### 2 委員、事務局紹介

（自己紹介）

### 3 小池教授講話「国の動向、条例制定について」

（別紙「子どもの権利擁護にかかわる国の動向と条例制定」のとおり）

### 4 委員長・副委員長の選任について

（委員長は小池委員、副委員長は今井委員に決定）

### 5 議題「（仮称）見附市子ども・子育て条例制定について」

（1）条例の概要について

（2）条文構成案及び条文説明について、アンケートについて

（事務局より別紙1、別紙2、別紙3、（仮称）見附市子ども・子育て条例制定に向けたアンケート（集計表）のとおり説明）

#### <検討委員会から意見等>

・家庭ごとに様々な問題がある。子どもアンケートに「自分を大切にしていますか」、「大切にされていますか」とある。「あまり思わない」と回答した子どもが同一人物なのかどうか、問題をかかえているのかも問題になってくる。「自分を大切にしていますか」などについて「思う」と回答した割合が100%に近ければ近いほど意味合いがあるのではないかと。

・条例をつくるだけでなく、市民全員がこの条例を知ってほしい。ぜひ広く皆さんから意見をもらってほしい。委員や関係する教育関係者だけでなく、一般の母親からも意見をもらえる場所があるとよい。

・この検討委員会はこの条例に対しての意見交換する時間でいいのか。保護者の役割にとっても意見があるが、時間も限られている。コミュニケーションができるような時間にしてほしい。  
→（事務局）次回の検討委員会の2回目には、様々な立場の皆さんから意見を聞けるように、グループワークなどを設定していきたい。

・子ども3人を育てていると、とても大変で、こうした意見を言える場があることがとてもありがたい。見附市は市民の声をとても大切にしてくれている市だと思う。

・自分の母親たちは共働きでもっと忙しくて子どもの意見など聞いてもらえないという感じだった。子どもの意見を反映しなかったように思う。母親の立場となった今、私たちが子どもを育てるときに、子どもの心を育てて、大切にしていきたいなと強く思う。

・子どもの子をひらがなにするか漢字にするのか。

・厚生労働省、文部科学省で表記の違いがあった。国はこれから全部ひらがな表記の方に統一させていきたいのではないか。県の条例は全部ひらがなの「こども」にすると聞いている。

・実際に条例を運用して、日常生活の中で具体化され、どのように実施されていくのか。どのように見える化をしていくのか。大人の本気度が試されているのではないか。何を具体的にどうしていくのか。単なる予算的なことではなく、条例をどのようにつくっていくのか。条例の中で子どもたちの意見を取り入れることがとても大事だ。大人がつくっていくのではなく、子どもの意見を吸い上げていくように、我々の大人の本気度が問われているのだと思う。

・市民として、子どもを大切に、安全安心に育てていきたい。純粋に我々の思いが形となり、見附市ならではの条例として出来上がることが望ましいと思う。それが文章だけでなく、広く皆さんに理解されて広まっていくということが大切だと感じた。

・子どもの意見を大事にされるようになってきているので、そういったことを踏まえて、子ども・子育て条例もつくっていく必要があると思う。

・子どもが本当の意味で自立していくためには、その支えとなる方はどのようにあるべきか。子どもたちの自立に関する成長は、おうちの方々や地域の方々のおかげで、伸びてきていると思う。そういった動きを踏まえて、それを支えていくための条例をつくっていききたいと思う。

・子どもたちの声をアンケートなどで吸い上げて反映し、子どもたちの考えを大事にしていきたいということは今までの私たちには考えられないようなことで、素晴らしいと思う。アンケートだけでなく、例えば、市内の学校の児童会や生徒会の中学生くらいの子どもたちにどんなことがあったらいいのか、どのようにしたらいいのかとその子どもたち自身にも真剣に考えて検討させる場をつくってそれを反映させるということも一つの方法と思う。

・条文の説明にリーフレットの作成と書いてある。例えば、新潟市は、小中高の子どもや大人向けのパンフレットを作っていて、広く教えられ知らせるようにいろいろ工夫している。そういったパンフレットを見附も考えていいのではないか。

・アンケートだけでなく、市内の小中学校に行く、一人ひとりの声を受けるなど、もっと別のやり方をこれからしていただきたいと思う。

・子どもたちが笑顔でいれるためには本当に母親次第だと思えるときがある。母親や一人ひとりの世帯や家庭を支援できる、母親やそれぞれの家庭の声を反映されるような、内容の条例になるとよいと思う。

・興味を持たない方にどうやったら、伝わるのかと思う。素晴らしいものができても、これを自分の家庭に当てはめられない人たちに対してどういうふうにかこれに訴えていったらいいかと思

う。

・会社の中で、子育てしているということについて今こんな悩みがあるなど、みんなそうだよねって言えるような関係をつくってもらいたい。子育て中の保護者にとって、いいことしているな、子育てしていることに夢があるなど、盛り立ててもらえるような条例制定をしてもらいたい。保護者の大変さも入れてほしい。

・地域の中で子どもを育てていくというのは、いろんな人の手が多ければ多いほどいいと実感がある。

・条例とか条文は、難しい言葉を使っているが、もう少しわかりやすくしてほしい。わりと子育て中の家庭の方には子ども・子育て条例というわかる方も多いと思うが、全く子どものいない家庭など、どんな人たちにもわかってもらえる条例をつくってほしいと思う。

・条例ができたとしても、役割分担で繋がってないとなれば、何にもならないとすごく感じられる。いろいろな関係者がいるが、その繋がりがうまくできるようにしてもらわないと子どものためにならない。

・過疎化により、コミュニティ活動や学校役員等々を選出するときなど、子育ての負担は地域ごとによりかなりの差があるかと思う。

（福祉サービス事業者の意見）

・福祉サービスを利用している子どもは、月曜から金曜まで学校に行って、緊張することもある、人間関係など、一生懸命頑張っているにもかかわらず、土曜日曜も事業所に預けることに疑問がある。ただ家庭の環境の中には、保護者が働かなければいけないという家庭もたくさんあるので、そこをみんなでどう考えてあげるのが大事だ。

（地域コミュニティの意見）

・行事を計画するときに、大人たちの意見を聞いて、大人の都合の方に引っ張られていくような感じだ。子どもたちからアンケートをとってイベントに反映させるという経験がない。

・子どもアンケートに「家族以外の大人の人に望んでいること」とあるが、これは子どもたちから出てきたニーズだと思う。「大人が子どもを理解すること、子どもの意見の尊重を具体的にどのようにしていくことがいい方向なのか」をこの場で学びながら、また、制定されたときにはコミュニティに持ち帰って、子どもの意見が尊重されるような取り組みにしたいと考える。

## 6. 閉会